

令和6年度（補正予算）
独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

一般社団法人やまがた福わたし
フードバンクによる
食料支援と
相談ネットワーク事業
報告書



山形助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

団体メンバーご挨拶

代表理事 伊藤 智英



山形の四季折々の豊かな実りと、人々の温かさに包まれ、私たち「やまがた福わたし」は2016年10月より歩みを進めてまいりました。平素は多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年度は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）様より令和6年度補正助成をいただき、フードバンク活動のさらなる充実に努めることができました。

“困った時はお互い様”——。この山形に息づく助け合いの精神こそが、私たちの活動の原動力です。フードドライブを通じて寄せられる善意は、単なる食料支援に留まりません。貧困や孤立、80・50問題といった深刻な地域課題に直面する方々へ、「一人ではない」という安心と自立への希望を届ける架け橋となっています。

これからも、この愛すべき山形の地で、誰もが健やかに、共に生きられる未来を築くため、一步ずつ実直に活動を続けてまいります。

スタッフの声 ～1年を振り返って～

- 季節行事やお子さんの長期休みにあわせて、お菓子やレトルト食品、インスタント食品をうまく利用しながら少しでも日々の負担が軽減されていたら嬉しいです。
- 日々の献立を考えるのにも頭を悩ませますが、パスタとパスタソースなど組み合わせてお送りすることで親御さんの負担やお子さんでも調理可能にする時短の手助けによって少しでもお子さんと過ごす時間が増えてくれたらと思うばかりです。また、「家に食べるものがある」という安心感や生活の足しになれたならいいなという思いでやり切れました。
- こどもおふく便の準備から発送まで、ボランティアさんを含め、チームで連携しながら取り組んできました。各世帯の人数やお子様の年齢に合わせて中身の量や種類を考えたりする時は、相談しながら決めていたり、お米や飲料、缶詰などの重量物は協力しながら運搬したりと大変なこともありましたが、また、他の業務と並行しながら進めていく為、発送直前まで作業がかかることも多々ありましたが、受け取った方が少しでも笑顔になれていたら大変嬉しく思います。



連携先一覧

(敬称略、順不同)

連携先自治体

山形市、新庄市、寒河江市、大江町、河北町

連携先自立支援窓口 (社会福祉協議会)

山形市、天童市、東根市、尾花沢市、
長井市、南陽市、寒河江市、大江町、
中山町、山辺町、大石田町、白鷹町、
川西町、飯豊町、金山町、庄内町、三川町

連携先自立支援窓口

西村山地域生活自立支援センター ういんず
生活自立センターもがみ

その他連携先各団体

各地のこども食堂・地域食堂
山形県学童連絡協議会
社会福祉法人 思恩会
特定非営利活動法人With 優
特定非営利活動法人から・ころセンター
社会福祉法人 愛泉会
地域生活支援センター天花
西村山地域基幹相談支援センター
基幹相談支援センターかぼちゃ
一般社団法人mahaLim

組織の事務体制診断結果



活動を開始して約10年が経過し、活動が広がるにつれて、様々な記録や、事務手続き書類も多くなってきました。行政との契約、保険関係の手続き、会計と税務なども、改めて重視すべき局面です。

そこで、多くの方の信頼を預かり、公益的な活動を広げられる土台を整えるため、2024年度から組織基盤整備のコンサルティングに関わってもらっている「認定NPO法人アカツキ」の力を借り、事務体制の診断サービスを実施しました。

監査のように、約60項目近くのチェックを実施、その結果80%を超えるという、全国でも高い水準であることが確認できました。

外部の目を入れた上で、大きな事務手続きの漏れもないことが確認でき、安心すると共に、議事録などの更に細やかな保存体制構築、規定類の整備など、改善点を洗い出すことができました。

事業の実施概要・実績

＊今年度の実績はすべて2025年4月～2026年2月まで

自立に向けた 食料支援 事業



本事業は、山形県内の自立支援窓口（計13か所）と緊密に連携し、生活困窮世帯に対して迅速な食料支援を行うものです。支援を単なる物資の提供に留めず、自立への一歩と位置づけ、原則3か月（3回）の継続支援を実施しています。

また、食料支援が一時的な「しのぎ」や過度な依存に繋がらないよう、専門窓口と常に情報を共有し、相談者が自立した生活を取り戻すための「出口」を見据えた伴走支援を徹底しています。

フードパントリー ／こどもおふく便 事業



本事業は、対面形式の「フードパントリー」と、地域団体と協働して食品を届ける「こどもおふく便」の二本柱で展開しています。単なる食品の配布に留まらず、直接の対話や定期的な提供を通じて、受益者の個別ニーズの把握や、孤独・孤立を防ぐ「見守り」の役割を担っています。

また、県内各地での実施を支援することで、地域主体の支援の輪を広げる中間支援的な役割も果たしています。

生活困窮者や 引きこもりへの 中間的支援 事業



本事業は、食品ロスの削減という「環境課題」と、社会的孤立の解消という「福祉課題」を循環させる中間支援の取り組みです。企業等から寄付された食品を広域的に配分する「食のハブ」としての機能の役目を果たしています。

事業によって得られた成果

延べ279世帯 537人への 食料支援

- ・ 困窮理由の傾向： 支援依頼を分析した結果、多重債務や公共料金の滞納による困窮、また病気による突然の離職・収入途絶といった深刻なケースが顕著に見られました。
- ・ 柔軟な対応による下支え： 生活再建に時間を要する世帯が増加している現状を受け、個々の状況に応じて柔軟に期間を延長するなど、生活基盤が根底から揺らいでいる世帯へ実効性の高い下支えを行いました。
- ・ 自立支援の促進： 窓口との緊密な連携により、食料支援を「きっかけ」とした継続的な生活相談へと繋げ、自立に向けた意識の維持・向上に寄与しました。

フードパントリー 205世帯 242人 こどもおふく便 延べ991世帯 3,703人

- ・ 見守り機能の強化： 自治体や社協、こども食堂等との協働により、毎月の提供を通じて受益者の健康状態や悩み事を継続的に把握。徐々に深い相談が寄せられるようになるなど、信頼関係の構築が進みました。
- ・ 支援活動の波及効果： 当団体との共同開催をきっかけに、独自でフードパントリーを開始する団体が現れるなど、山形県内における支援拠点の拡充に繋がりました。
- ・ ボランティアの参画と活力： 毎月500kgを超える精米や袋詰めや品物の準備作業、お菓子の世帯別袋詰め作業、発送作業をボランティアと共に行いました。受益者からの「こどもおふく便に救われている」という感謝の声が、活動を支える大きな原動力となり、なんとか少ないスタッフで実施しました。

取扱約30.2トン 提供約8トン

- ・ 広域的な食料配分の実績： 県内食品製造企業からの提供やフードドライブにより昨年度を上回る量を確保し、県内の子ども食堂、福祉施設、東北・新潟・沖縄の各フードバンク、東京・大阪のホームレス支援団体等へ提供しました。
- ・ 直接相談の増加： 長年ひきこもり状況にあった方や生活困窮者からの直接相談も増え、本活動が「社会とつながる最初の一步」として機能しています。
- ・ ボランティア参画による自立支援： ひきこもり状況にある数名がフードパントリーの荷運び等に従事しました。重い荷物を運ぶという実直な作業を通じて「人の役に立つ実感」を得ることで、社会復帰への自信を深める貴重な機会となりました。
- ・ 多機関連携による孤立防止： 連携団体において、食糧支援をきっかけとした相談受付が行われるなど、食が「孤立を防ぐ重要な接点」となり、多層的な支援体制の構築に寄与しました。

自立支援事業／こどもおふく便 利用者の声

「こどもおふく便」
とは...

「地域の手から、
ご家庭へ。
笑顔をつなぐ、
こどもおふく便」

高校生までのお子さんが
いる世帯を対象に、食料品
や日用品を毎月1回、手渡
しでお届けしています。自
治体や社協、こども食堂
など地域の団体が連携
し、日々の暮らしに安心
をお届けする見守り支援
事業です。

3,703
人

991
世帯



自立支援事業の利用者の声

- ・涙が出るほどうれしいです。1日も早く提供できる立場になりたいです。（50代・男性）
- ・この度みなさんに良くしていただいて何て言ったら良いかわかりませんが本当にありがとうございます。助かります。（50代・男性）
- ・子どもの学費や現在の生活状況について相談したところ担当者から食料・フォローがあるということで提案してくれて大変苦しい現在の状況で大助かりです。感謝いたします。（40代・女性）
- ・たくさんいただきありがとうございます。今回で生活が立て直す事ができるように見通しが立ってきたので今後チャンスがあればフードバンクに役立てる側になれるかと思っております。ありがとうございました。（30代女性）
- ・転職活動の糧にさせてもらいます。精いっぱいがんばります。（30代・男）
- ・食料品、本当にありがとうございます。仕事（アルバイト）をする話も決まりつつあるので一生懸命働き、今の生活を向上する心づもりしております。本当にありがとうございました。（70代・男性）
- ・これだけたくさん頂けるとは思っていませんでした。これで安心して年末年始を乗り切れます。ありがとうございました。（20代・男性）
- ・こどもたちが嬉しいと言っています。おかしや保存の効く食品ととてもうれしいです。
- ・ありがとうございました。（30代・女性）
- ・毎回食料品、家庭用品など生活にかかせない、生きていく上でかかせない物を御もらいて、本当に感謝の気持ちしかありません。このせちがらい世の中に生きていく気持ちを下さり感謝しかありません。自分も残り少ない人生で困った人を支援できるようになります。（70代・男性）
- ・食料支援を求められてもお渡しするものがなく、特に要望の多いパックごはん・みそ汁は購入するしかないかと考えていたところでした。ご相談したところすぐにご対応頂き感謝致します。（社会福祉協議会自立支援担当者様）

こどもおふく便利用者の声

- ・エアコンがないので7月の乾麺はとてもうれしかった。
- ・気持ちの浮き沈みがあるが、こどもおふく便をいただけることで心が安定します。
- ・冬休みがあるので子ども達の食事をどうしようかと思っていたのでとても助かります。特にお米がありがたいです。
- ・こどもが毎月のお菓子を楽しみにしており、こどもの笑顔がみれることが一番うれしい。
- ・12月に入っていたホットケーキミックスをこどもが焼いてくれた。また焼いてくれるのでうれしい。
- ・こどもがアルバイトして家計を助けてくれていたが、辞めることになり生活がますます大変になるのでこどもおふく便は助かる。
- ・生活が苦しいので、たくさんの食品をいただけてありがたい。
- ・突然の大きな出費があり、いただいた食品で生活ができています。
- ・不登校のこどもが2人いるので、食費がかかるので助かる。

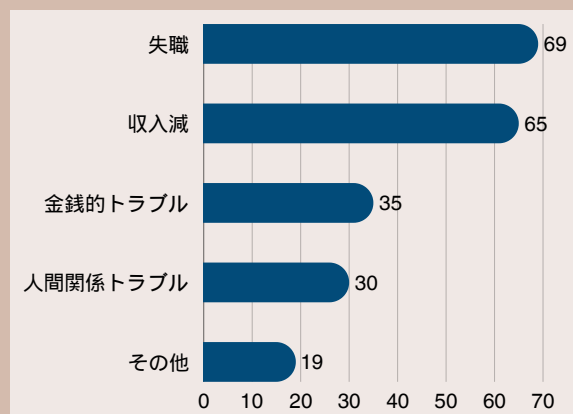
調査概要

- ・ 期間：2025年4月1日～2026年2月13日
- ・ 対象：自立支援窓口の担当者が、
上記期間内に対応した計178件について回答
- ・ 形式：Google フォームにて回答

自立支援事業対象者データ分析

支援に至った背景（複数選択式）

✓ 一時的要因



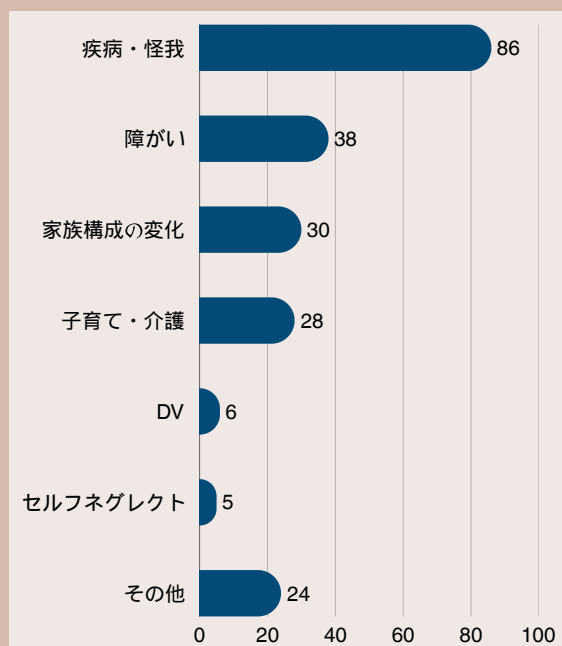
<左記「その他」の内容>

- ・ 物価高による支出増
- ・ 家計管理が困難／趣味への出費が多い
- ・ 固定資産税滞納による差し押さえ／滞納分の支払い
- ・ 障害者年金の更新不備による受給停止／生活保護一時停止
- ・ 葬儀費用や香典・車検など一時的な高額の出費
- ・ 自宅が火事で焼失
- ・ 家族等の援助者がいない
- ・ 国外の家族への仕送り

>>支援を必要とする背景は多岐にわたりますが、一時的要因では「失職」や「収入減」が上位を占めており、急激な経済状況の変化が引き金となっていることが分かります。

自由記述からは「物価高」や「家計管理の課題」も散見され、単純な金銭不足だけでなく、社会情勢や生活スキルの問題が複雑に絡み合っている実態が浮き彫りになっています。

✓ 継続的要因



<左記「その他」の内容>

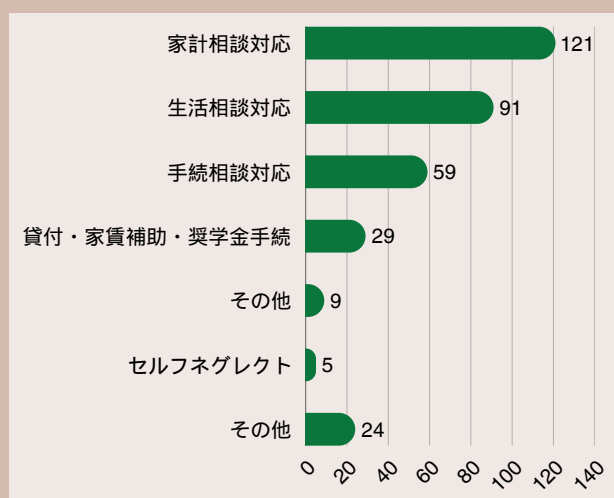
- ・ 孤独・孤立（家族からの支援の停止／相談できる家族等がない）
- ・ 家族内の意見の相違
- ・ 家族又は本人のひきこもり
- ・ 家計管理に課題がある
- ・ 通信販売の過度な利用／ギャンブル依存
- ・ 負債が多く返済の見込みがたたない
- ・ 外国籍

>>「疾病・怪我」が突出して高く、健康問題が長期的な生活困窮の根底にあるケースが目立ちます。

自立支援事業 対象者データ分析

食糧支援と併せて行った介入
・支援の内容（複数選択式）

① 相談対応・アドバイス

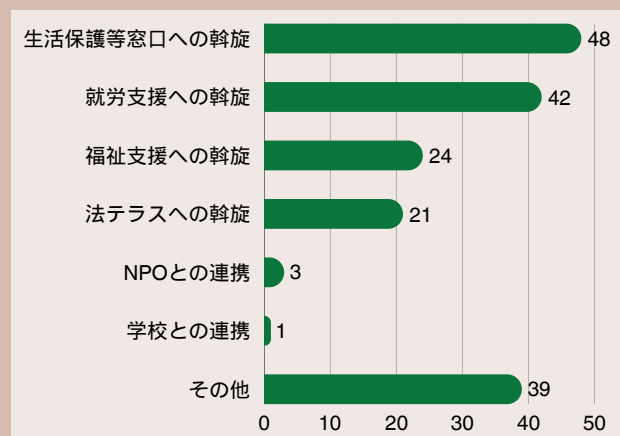


<左記「その他」の内容>

- ・住居探しの手伝い／県営アパートへの転居支援／不動産会社の紹介
- ・障がい年金の申請対応／介護保険サービスの相談対応
- ・食料支援と運搬
- ・受診などの支援
- ・職場への相談対応

>>アンケート結果では「傾聴・ケア」の実施件数が突出しており、手渡しによる継続的な関わりが、孤立しがちな世帯との強固な信頼関係（ラポール）形成の土台となっていることが裏付けられました。この信頼関係を基盤に、最多の相談ニーズである「家計再建」や「生活相談」への深い介入が可能となり、生活保護や就労支援といった専門機関への適切な橋渡し（ハブ機能）へと繋がっています。

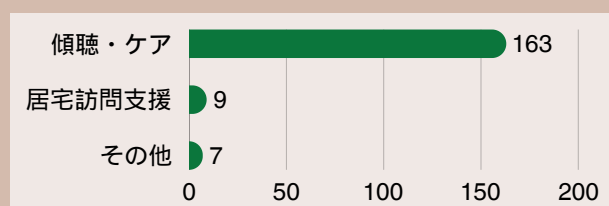
② 各制度・他機関への接続



<左記「その他」の内容>

- ・医療的病児支援センター等（福わたし経由）
- ・地域包括支援センター、自立支援センター、相談支援事業所
- ・民生員／ひきこもり相談員
- ・行政（福祉課、子育て課、市長寿支援課）
- ・行政関係機関（子ども家庭センター／年金事務所／消費生活センター）
- ・無料低額診療所、病院、保健所
- ・ケアマネージャー、訪問看護
- ・法テラス以外の法律相談／B型肝炎訴訟弁護団
- ・葬儀会社／不動産会社等

③ その他の支援



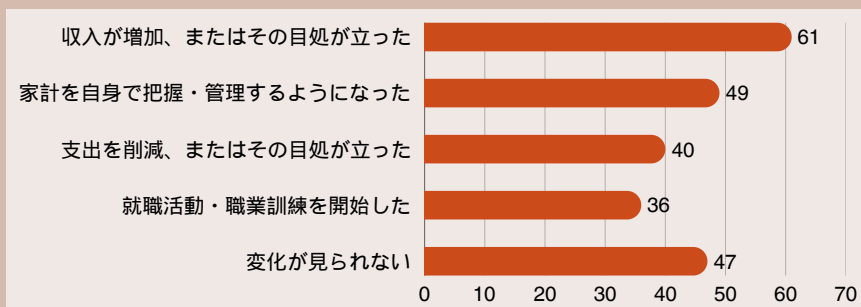
<左記「その他」の内容>

- ・一般企業の求人の紹介／履歴書の作成支援
- ・病院・支払い・市役所手続等への同行
- ・安否確認
- ・不動産売却
- ・保育時間の延長
- ・家族との面談

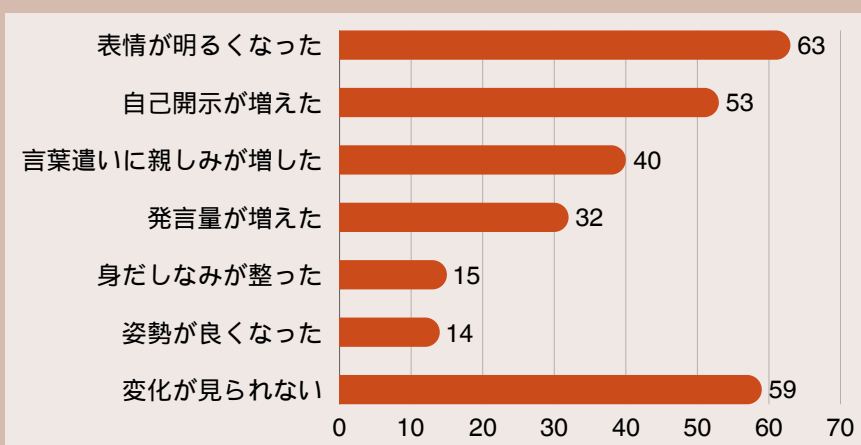
自立支援事業対象者データ分析

支援前と比較して見られた変化（複数選択式）

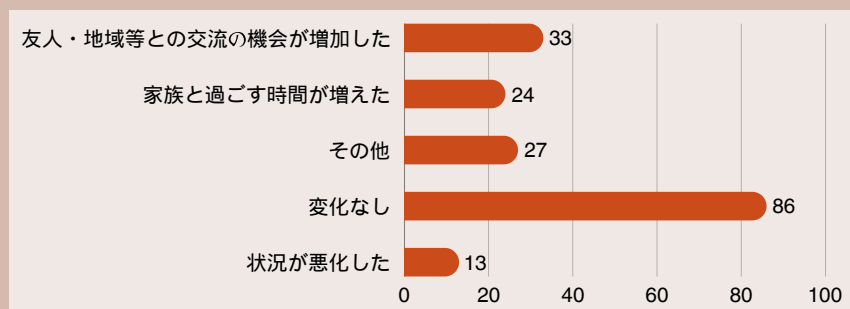
① 経済・就労状況の変化



② コミュニケーションの変化



③ その他の変化



>>多くの世帯において生活基盤の立て直しと精神的な回復という、極めて実効性の高い成果が見られました。具体的な変化として、経済面では60件以上の世帯で「収入の増加や目途」が立ち、自立に向けた確かな一歩を踏み出しています。

また、最も顕著な変化として「表情が明るくなった」との回答が最多を占めたことは、食料支援による安心感が心の余裕を取り戻し、前向きな意欲を引き出す重要な契機となったことを示しています。

さらに、地域交流や家族との時間が増加するなど、孤立状態からの脱却という社会的な回復も確認されました。一方で、依然として状況が悪化しているケースも存在しており、画一的な支援では解決困難な課題も浮き彫りになっています。

おふくわけ弁当



自治体や社会福祉協議会、各福祉団体と連携し、見守りや食生活の改善が必要な世帯を対象に、計256食のお弁当をお届けいたしました。

また、2025年8月から2026年2月にかけては、一般社団法人mahalim様との協働により、定時制高校へ「ほっとごはん」として計166食を提供。次世代を担う生徒たちへ食事での支援にも取り組みました。



＜ボランティアスタッフの思い＞

- お弁当を食べながら美味しいと笑顔がこぼれるひと時を過ごしてもらえたらの思いを込めて毎回お弁当を作らせていただいています。
- 本当に日々食事に困っている人がいるんだと改めて感じました。また作ったお弁当の感想を教えてもらって、頑張ってたかったと思ったり、少しだけど今までと違う社会との繋がりを感じました。
- 色々な事情で、今日、今晚の食事が心配な方へすぐに食べられるお弁当で少しでも心が軽くなればいいなと思いお弁当を作りました。食べることは生きることなので、少しでも栄養をとって明日への活力への手助けになればとボリュームなお弁当を心がけました。ただ、ボランティアの人数が足りなく綱渡りの状態でしたので、どのように増やして行くか、運営して行くか今後の課題です。感想は求めていますでしたが、絵や文章で想いを伝えていただいた時もあり、とても励みになりました。
- 困った時はお互いさま。微力でも何かお役に立てればと思い、参加しました。試行錯誤の連続でしたが、良き仲間と一緒にだったからこそ何とか続けることが出来ました。そして何より、お弁当をお届けしたご家族が喜んで下さることが、私達の喜びであり、やりがいです。ただ、材料費や人手不足といった大きな課題があります。この問題を抱えたままの存続は厳しいのでは？といった不安があります。
- 全くの手探りから始めたおふくわけ弁当でしたが、いろいろな方のご協力のもと、毎月お届けできた事に感謝しています。お腹一杯に食べてくれるといいな～といつもお届け先の方々のお顔を思い浮かべていました。何かと課題はありますが、活動を通して食の大切さを実感させていただきました。

新たな課題とニーズ

✓ 生活保護受給者への対応と新たな課題

今年度は、生活保護受給者の方々からの相談も増加傾向にありました。現行の制度だけでは解決しきれない「制度の狭間」にある困窮や、精神的な孤立といった複雑な課題が浮き彫りとなっています。フードバンクとして、どの段階で、どのような形で公的扶助と連携し、支援を補完していくべきか。依存を招かずに提供するための対応方法の確立が、来年度以降の重要な検討課題となっています。

✓ 孤立という「見えない貧困」への対応

80・50問題や長年のひきこもり、そして独居高齢者の増加など、地域社会からの孤立は、支援の声を上げることさえ困難な「見えない貧困」を深刻化させています。食糧支援は、こうした方々が社会とつながる「唯一の接点」としての役割を担っており、物理的な支援以上に、孤独を解消するための社会的ニーズが極めて高まっています。

✓ 多層化する困窮の背景

物価高騰が生活基盤を直撃する中、借金や公共料金の滞納、病気による離職など、複数の要因が絡み合った困窮が増加しています。物価高や予期せぬ出費により食生活を維持できないといった相談が増えている現状は、既存の社会保障制度だけでは埋めきれない「制度の狭間」の拡大を示唆しておりニーズも多層化しています。

✓ 地域循環型社会への期待と広報の課題

食品ロス削減という環境課題への意識が社会全体で高まる中、企業や個人が持つ「余剰」を地域の「必要」へとつなぐフードバンク活動は、持続可能な地域社会を築くための重要なインフラとして期待されています。

しかしながら、山形県内においては活動の意義や仕組みに関する認知がまだまだ十分とは言えず、支援を必要とする方へ情報が届ききっていない、あるいは寄付の輪が一部に留まっているという現状があります。

どれほど優れた支援の仕組みがあっても、それを知っていただき、活用されなければ地域課題の解決には繋がりません。今後は「食のセーフティネット」としての役割を広く浸透させるため、メディアとの連携や地域イベントを通じた積極的な広報活動を強化していくことが、私たちの喫緊の課題となっています。

まとめと今後の展望

【継続する経済的困窮と複雑化する背景】

コロナ禍に端を発し、長期化する物価高騰は、地域社会の家計に深刻な影を落とし続けています。現場では、経済的な困窮のみならず、精神的な疾患等により就労が困難な方からの支援依頼が急増しており、従来の一時的な支援の枠を超えた、中長期的な伴走支援の必要性がかつてないほど高まっています。

【子どもたちを取り巻く多角的な課題への介入】

食の支援を通じて見えてきたのは、子どもたちを取り巻く過酷な現状です。不登校、ヤングケアラー、ネグレクトなど、家庭内に潜在する多層的な課題に対し、「食」をきっかけとした接点を持つことで、関係機関と連携した解決の糸口を探るケースが増加しています。食料支援は、今や単なる物資の提供ではなく、家庭のSOSをキャッチする重要なセーフティネットとしての役割を担っています。

【次年度に向けた決意：連携と柔軟な支援】

食の支援だけで全ての課題を解決することは容易ではありません。しかし、食を起点にすることで、孤立を防ぎ、次の一歩へ繋ぐことは可能です。今後も私たちは、誰もが十分な食料を確保し、安心して暮らせる社会の実現を目指し、社会情勢の変化に応じた柔軟な活動を展開してまいります。行政、社会福祉協議会、そして地域のNPO団体との連携の輪をさらに広げ、山形の地で「誰一人取り残さない」支援の形を追求し続けてまいります。

あなたもできる 福わたし

01 お金の支援	02 時間の支援	03 能力の支援
寄付の力で 活動を後ろから 支える	簡単な作業や 労働力で 活動に参加	専門的な知識や 持っている物で 活動を支援
個人 賛助会員 年間1口 3,000円	入庫・出庫作業	倉庫や敷地の貸し出し
法人 賛助会員 年間1口 50,000円~	倉庫整理	広報サポート
	集荷作業	企画・運営
	フードドライブ受付	フードドライブ開催



以下にて受付しております
口座名義は共通
一般社団法人やまがた福わたし



各種お申し込みはメール or
お電話にてお願い致します。



ゆうちょ銀行

記号：18560
番号：23672901

荘内銀行 山形営業部

支店コード：160
普通：1114396

山形銀行 山形南営業部

支店コード：140
普通：1643

山形県山形市東山形2丁目2-11
TEL：023-606-0053
toiawase@fukuwatashi.com
<https://fukuwatashi.com/>



やまがた福わたし
food bank yamagata central